

# 放射エミッションのオンサイト測定におけるアンテナ選定

◇アンテナの違いによる測定結果の差異および選定方法をご紹介します

[アプリケーション ~\*Application\* ~]

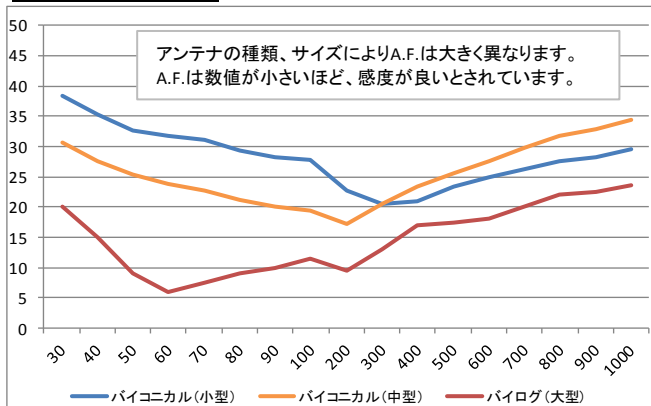
放射EMI(エミッション)のプリコンプライアンステストにおいては、より低いレベルのノイズも測定できるように、測定器の性能はもとより受信アンテナの選定も重要となります。

[ソリューション ~\*Solution\* ~]

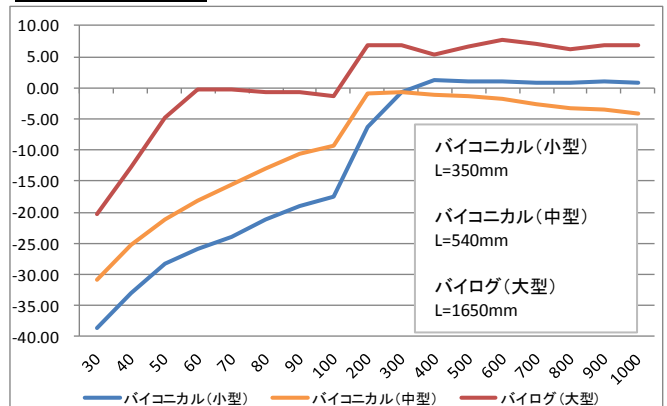
■構成図



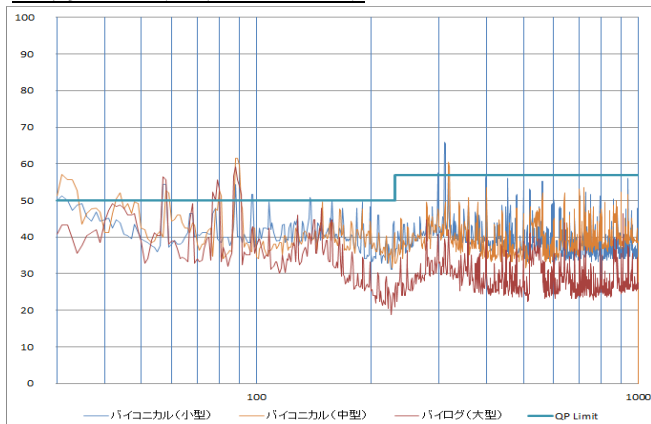
■アンテナファクタ      縦軸:A.F. 横軸:周波数(MHz)



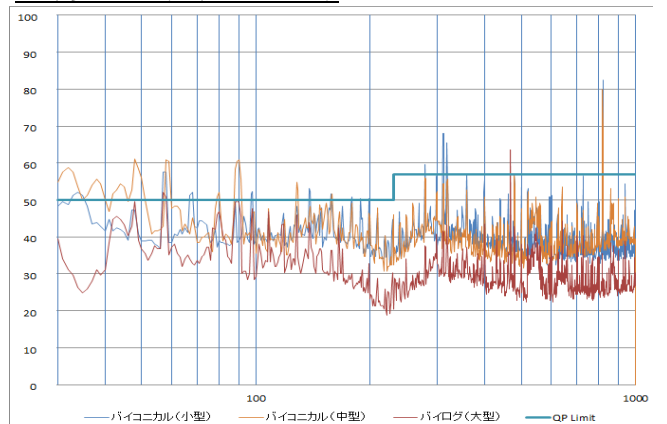
■アンテナゲイン      縦軸:利得(dBi) 横軸:周波数(MHz)



■環境ノイズ(水平:Horizontal)



■環境ノイズ(垂直:Vertical)



上記の測定結果(グラフ)は、アンテナを同じ条件で設置したときの空間ノイズ(環境ノイズ)比較です。パイログ(大型)アンテナのフロアノイズが一番低くなっています。通常は、感度の良いパイログアンテナを選定するところですが、L=1650mmとサイズがとても大きいため、可搬性はありません。測定場所が限定的且つ広ければ、パイログアンテナが良いと言えます。小型、中型のバイコニカルアンテナはパイログアンテナと比べて性能は劣りますが、サイズが小さく可搬性に富みます。出張測定で持ち運びが多い場合やノイズ探索用として被測定物(EUT)に近づけて使用する場合に便利です。使用する環境に応じた選定が肝要です。

※詳細については、弊社営業担当までお気軽にお問合せください。

2018/8